2027年3月期 上期(FY2026 1H)
経営現況報告

2026年11月４日

千代田化工建設株式会社
（証券コード：6366）

CHIYODA CORPORATION
© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

説明者



代表取締役 社長
太田 光治

AGENDA：

1. **中東情勢の当社事業への影響と対応状況**
2. **「経営計画2025」の進捗状況**
3. **遂行中案件の状況**
4. **受注の状況**
5. **A種優先株式の償還状況**



社長の太田です。
続きまして、「経営現況報告」について資料に沿ってご説明します。

1.中東情勢の当社事業への影響と対応状況

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

中東情勢の当社事業への影響と対応状況

現在中東地域で遂行中の主要EPC案件は2件
いずれも地政学リスクの影響を最小限に抑えながら建設工事を遂行中

NFE



3Dモデル完成予想図, Courtesy of QatarEnergy LNG

現在の状況	・設計・調達は終盤 ・第1系列の引き渡しに向けて取り組み中
影響	・所員の一部退避（3月）による一時的な制約 ・建設工事が順調に進捗
主な対応策	・現地情勢の継続的なモニタリングと緊急時の危機管理体制を整備
今後の見通し	・スケジュールへの影響を精査中 ・情勢を注視しつつ、完工を目指す

石油・石化案件（詳細非開示）



生成AIによるイメージ画像

現在の状況	・輸送への影響があるものの、全体では計画を上回る進捗で遂行中
影響	・海上輸送への制約等により一部工程の見直しを実施
主な対応策	・海上輸送状況を踏まえた物流対応の実施 ・工程・輸送影響の継続的な把握
今後の見通し	・物流・海上輸送への影響を継続的にモニタリングし、工程への影響を抑えながら遂行



現時点で当期業績への影響は限定的
引き続き安全を最優先にプロジェクトを遂行

CHIYODA CORPORATION

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

まず、中東情勢の当社事業への影響と対応状況についてご説明します。
スライド3ページをご覧ください。

中東情勢については、皆さまからお問い合わせを多くいただいていることから、今回も状況をご報告いたします。

当社は、現在も中東地域で複数のプロジェクトを遂行しております。
主要案件については、引き続き建設工事を継続しており、現時点で業績への影響は限定的です。

一部では、輸送ルートの制約に伴い調達対応を見直しているケースもありますが、
プロジェクト全体としては概ね計画に沿って進捗しています。

当社としては、現地の情勢やサプライチェーンの動向を継続的にモニタリングしながら、
必要な対策を適時に講じる態勢を維持しています。

引き続き安全を最優先としながら、リスク管理を徹底し、各プロジェクトを着実に遂行していきます。

2.「経営計画2025」の進捗状況

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

中期経営計画 「経営計画2025」 2026年度上期までの進捗

中計目標の達成に向け、変革を着実に推進

重点取組	海外既存大型プロジェクトの着実な遂行	• 米国ゴールデンパスLNG　第1系列の建設・試運転完了。1st LNGの生産達成 • カタール NFE　設計・調達は終盤に入り、建設工事が進行中 中東情勢影響により一時的に工事を停止するなどの影響が生じたものの、その後沈静化により、工事を順次再開
	海外プロジェクト取り組み改革(受注方針)	• 成長推進本部を設置し「全社営業」を推進する体制を整備 • 国内案件を中心に将来のEPC獲得に向けた案件形成が進展 • 国内エンジ事業を担う千代田エクスワンエンジニアリング（CXO）が着実に事業を拡大
	国内プロジェクトの収益拡大	
	事業共創の拡充	• ＜細胞医療＞東京応化工業との生体模倣システム（MPS）の社会実装に向けた基本合意書締結
	分厚い中核人財層の形成	• 中核人財の人財像と育成方針を再整備し、経験付与を軸とした育成運用を開始

CHIYODA CORPORATION

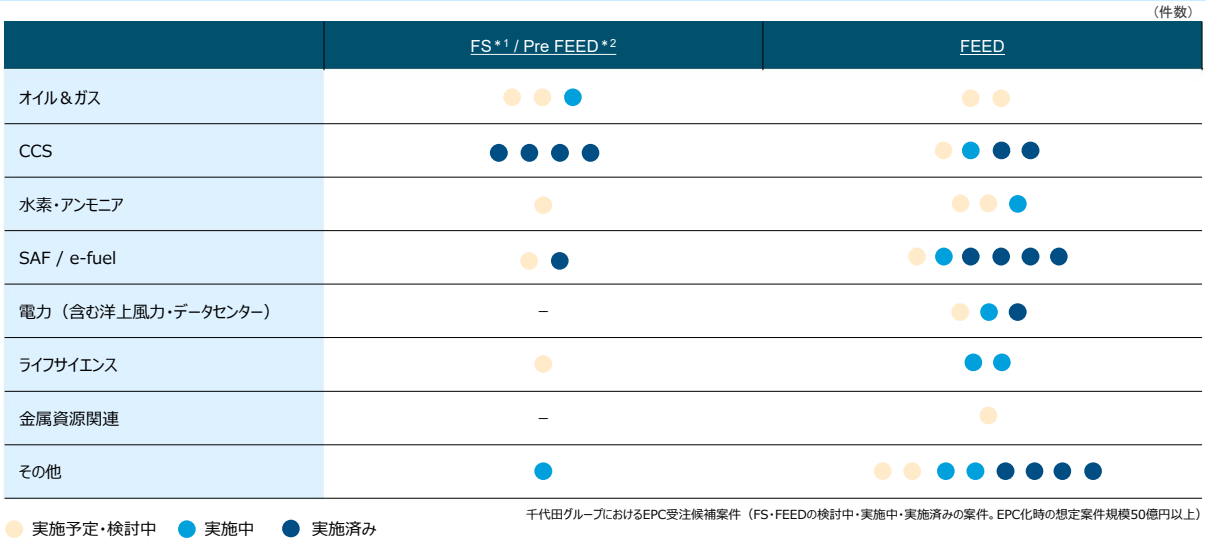
© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

続きまして、中期経営計画 「経営計画2025」の進捗状況についてご説明します。
5ページをご覧ください。

5つの重点取組全てにおいて、概ね計画に沿った取り組みが実施されています。
ここからは、主な進捗についてご説明します。

EPC受注パイプラインの形成状況

国内案件を中心に案件組成が進展し、将来のEPC受注に向けたパイプラインを着実に形成



千代田グループにおけるEPC受注候補案件（FS・FEEDの検討中・実施中・実施済みの案件。EPC化時の想定案件規模50億円以上）

*1 FS：Feasibility Study（事業可能性検討）
*2 FEED：Front End Engineering Design（基本設計）

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

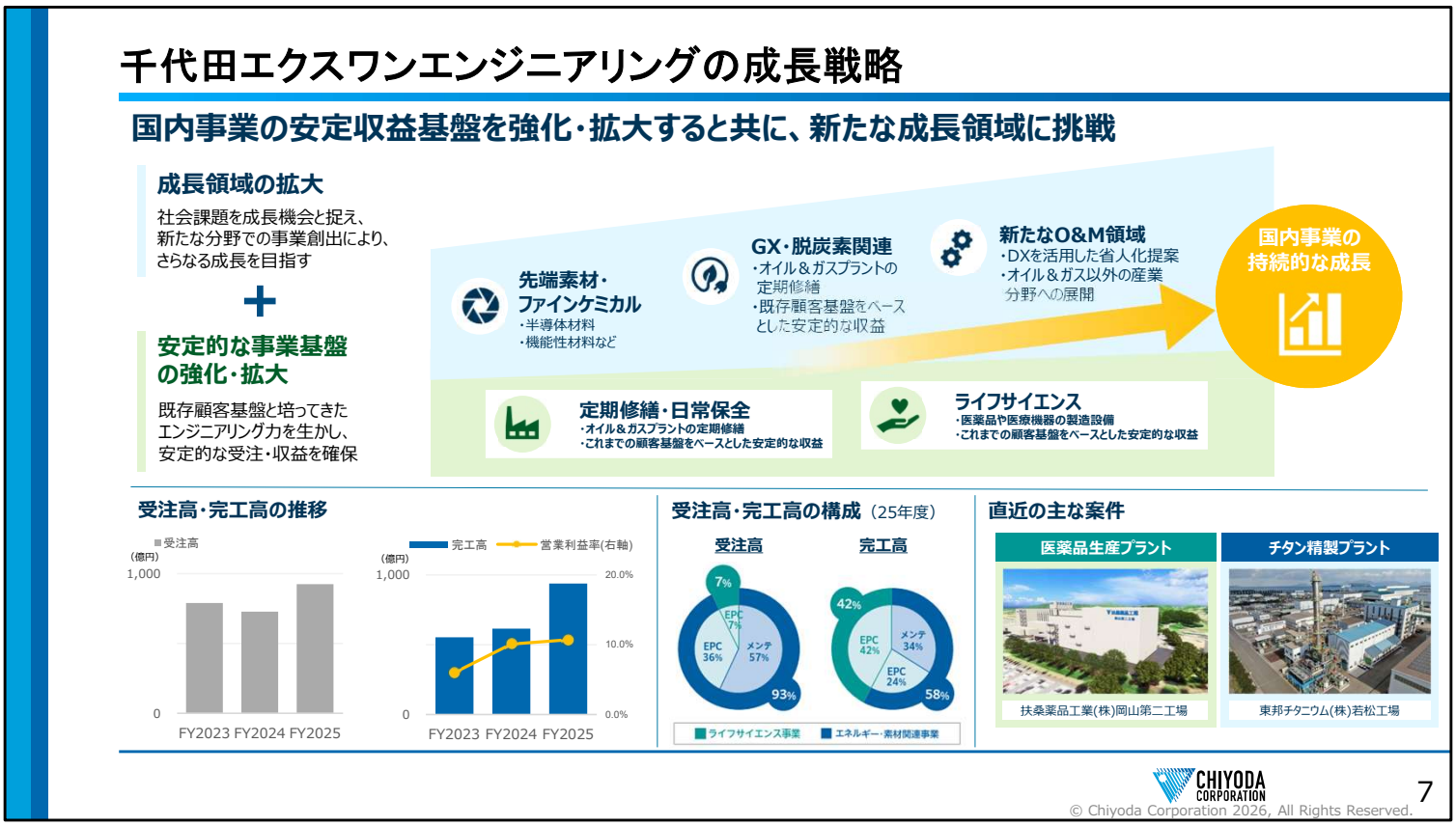
まず、「海外プロジェクト取り組み改革」、及び「国内プロジェクトの収益拡大」に関連して、受注パイプランの状況をご説明します。
6ページをご覧ください。

受注残高の減少と、それを補う今後の案件形成の状況について、皆様より多くのご質問をいただいております。
当社では、EPCの前段階であるFSやFEEDを通じて顧客との関係を構築し、その後のEPC受注につなげていくことが重要な案件形成プロセスの一つとなっています。

このスライドは、従来のEPC受注を想定したFS、FEEDに関する現在の案件状況を、分野別・段階別に示したものです。

特に注目いただきたいのは、単なる検討段階の案件だけではなく、FEEDまで進展した案件や、FEEDを完了した案件へと着実に進んでいる点です。
また、分野別に見ると、従来のオイル＆ガスに加え、CCS、水素・アンモニア、SAF、e-fuel、電力関連など幅広い分野で案件形成が進んでいることがお分かりいただけると思います。

個別案件に関する詳細は申し上げられませんが、将来のEPC受注に向けたパイプラインは着実に広がっていると考えています。



こうした将来の案件形成に加え、当社グループでは足元の収益基盤の強化も着実に進めています。

その一例として、国内事業を担うグループ会社、千代田エクスワンエンジニアリングの事業戦略についてご紹介します。7ページをご覧ください。
現在千代田エクスワンエンジニアリングは、メンテナンス事業やライフサイエンス事業を安定的な事業基盤としています。

左下のグラフのとおり、受注高・完工高は着実に増加しており、当社グループの国内事業拡大に寄与しています。その中でも、受注高の約6割を占めるメンテナンス事業は、既存顧客との長年の関係を基盤としており、安定的な収益源となっています。

また、ライフサイエンス分野においても、医薬品生産設備などの案件を継続的に受注しており、事業基盤の強化が進んでいます。

こうした既存事業で培った顧客基盤やエンジニアリング力を活かし、GX・脱炭素関連、先端素材、新たなオペレーション＆メンテナンス領域など、成長分野への展開も進めています。
足元では、医薬品生産プラントや機能性材料関連設備などの案件にも取り組んでおります。

ライフサイエンス事業の提供価値拡大に向け、MPS*1領域へ参入

東京応化工業のMPSデバイス技術と、当社の細胞培養・開発支援機能を融合し、ライフサイエンス領域での新たな成長機会を創出

世界的に高まるMPSへの期待

- 動物実験代替技術（NAMs*2）への関心拡大
- 新モダリティ普及で新たな評価手法が必要
- MPSは次世代創薬を支える有望技術

tok 微細加工技術 MPSデバイス開発 × CHIYODA CORPORATION CRDO事業 細胞培養の知見 エンジニアリング力

研究開発から社会実装まで一貫支援

- CRDO*3事業とのシナジー創出
- 研究開発支援から実装までの一貫支援体制を強化
- MPS関連市場への参入
- ライフサイエンス事業成長の基盤形成

両社の強みを組み合わせ、MPSの社会実装を推進



東京応化工業の製造する MPSデバイス「Fluid3D-X®」



千代田化工建設グループが筑波大学内に設置した細胞培養加工施設「TACT」

*1 MPS：Microphysiological System(生体模倣システム)の略。ヒト由来細胞とマイクロ流体技術を組み合わせ、生体内環境を再現する評価プラットフォーム
*2 NAMs：New Approach Methodologies（新しいアプローチ方法論）
*3 CRDO：Contract Research & Development Organization（医薬品研究開発受託機関）

CHIYODA CORPORATION

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

8

一方で当社グループでは、収益基盤の多様化に向けて、事業共創の拡充に向けた取り組みも進めています。
8ページでは、「事業共創の拡充」の具体例として、MPS、生体模倣システム領域参入についてご説明します。

ライフサイエンス分野では、新たな治療手段が広がる一方で、医薬品の有効性や安全性を、より早く、より正確に評価する技術が求められています。また、動物実験を代替する評価技術への関心も世界的に高まっています。
こうした中で、次世代の創薬を支える技術として期待されているのがMPSです。

MPSは、ヒト由来の細胞と流体技術を組み合わせ、生体内の環境を再現する評価基盤です。医薬品の有効性や安全性をより人に近い環境で評価できることが期待されています。

当社は、東京応化工業と連携し、このMPS領域に参入します。
東京応化工業が持つ微細加工技術とMPSデバイスの開発力に加え、当社が持つ、細胞培養の知見、開発支援機能、エンジニアリング力を組み合わせることで、従来のEPCにとどまらない価値提供を実現し、新たな成長機会の創出につなげていきます。

ここまでは「経営計画2025」の進捗状況についてご説明しました。

3. 遂行中案件の状況

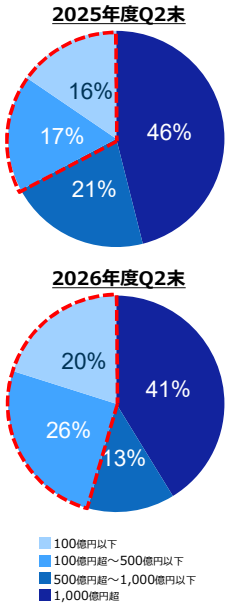
© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

主要遂行中案件の状況

◆主要遂行中案件一覧 *1

案件	国・地域	受注時期	プロジェクトの概要	受注残高
NFE LNG	カタール	FY2020/Q4	・ 単一系列として世界最大規模となる年産800万トンのLNGプラントを4系列建設中 ・ 中東情勢のリスクを踏まえた対応を講じつつ、現地での作業遂行中	1,000億円以上
石油・石油化学関係	中東	FY2025/Q1	・ 石油・石油化学関係プラントのEPC業務 ・ 中東情勢のリスクを踏まえた対応を講じつつ、EPC遂行中	500億円以上～1,000億円未満
ゴールデンパスLNG	米国	FY2018/Q4	・ カタールエナジー、エクソンモービルが出資する北米における重要なLNG開発案件の一つ ・ JVパートナーの米国McDermott社と共に、3系列のLNGプラント建設に関するEPC業務を遂行中 ・ 第１系列は、2026年3月に建設および試運転を完了し、1st LNGの生産を達成	100億円以上～500億円未満
LNG受入設備	日本	FY2024/Q4	・ LNG受入基地の能力増強に係るプラント設備のEPC業務 ・ 2029年度上期完工に向け計画どおり遂行中	
医薬品製造工場	日本	FY2026/Q2	・ 製造ライン新設及び生産機能集約に係るEPC業務 ・ 2028年3月完工に向け遂行中(グループ会社千代田エクスワンエンジニアリングにて受注・遂行)	
固体電解質大型パイロット装置	日本	FY2025/Q3	・ 全固体電池の材料となる固体電解質の製造をおこなうプロジェクト ・ 硫化リチウムの大型製造装置もEPC遂行中	–
LNG/ガス関連案件	中近東	FY2026/Q1	・ 中近東地域における既存設備に関する業務を遂行中	–

◆受注残高別構成の変化



*1 表中に記載の見通しおよびスケジュールは計画に基づく予測であり、様々な不確定要因により変動する可能性があります

CHIYODA CORPORATION

10

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

続いて、足元における遂行中案件の状況についてご説明します。
10ページをご覧ください。

こちらは、国内外において、現在遂行中の主要案件の状況を示したスライドです。
左側には主要遂行中案件を掲載しております。既存案件については前回決算時から大きな変化はなく、概ね計画に沿って遂行しています。

一方で、26年度第2四半期に受注した国内の医薬品製造工場案件や、第2四半期に進展した中近東のLNGガス関連案件など、新たな案件も加わっています。

その上で、今回ご注目いただきたいのは受注残高構成の変化です。

右側のグラフは、当第2四半期末及び前年度の第2四半期末の受注残高を案件規模別に比較したものです。
受注残高全体の構成を見ると、500億円以下の案件が着実に増加し、その比率は33%から46%へ上昇しています。

これは、大型案件への集中度が低下し、小・中規模案件の積み上げが進んでいることを示しており、ポートフォリオ転換が進んでいることがお分かりいただけると思います。
今後も多様な案件を積み上げることで、収益安定化と多様化の実現を図っていきます。

4. 受注の状況

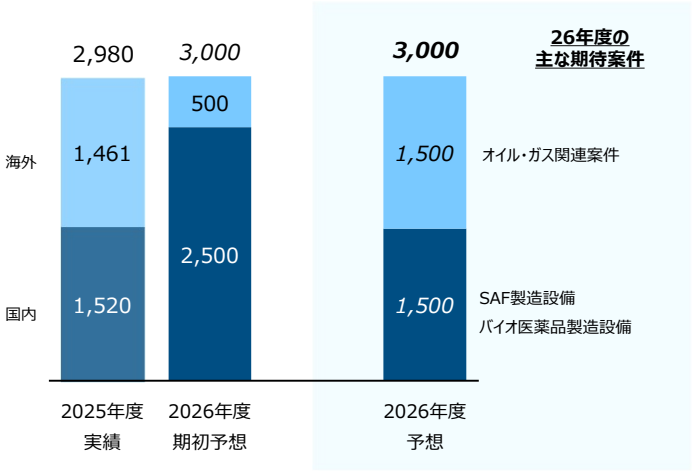
© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

受注/受注残高の状況

単位：億円

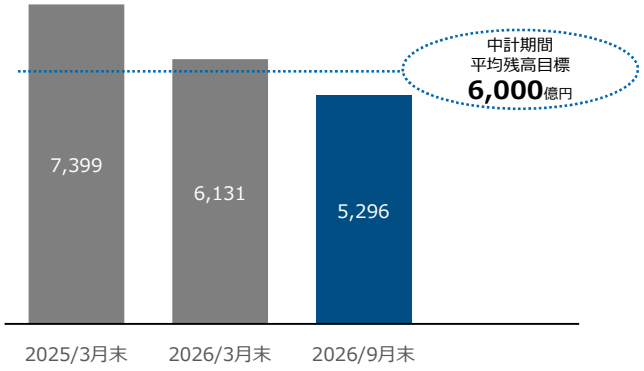
受注高

- 2026年度受注目標**3,000**億円は変更なし
- 案件形成状況を踏まえ、国内・海外の受注見通しを更新



受注残高

- 2026/9月末の受注残高は**5,296**億円
- 主要案件の着実な遂行に伴い受注残高は減少するも、将来の受注に向けた案件形成は着実に進展



CHIYODA CORPORATION

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

12

続いて、12ページ、「受注の状況」をご覧ください。

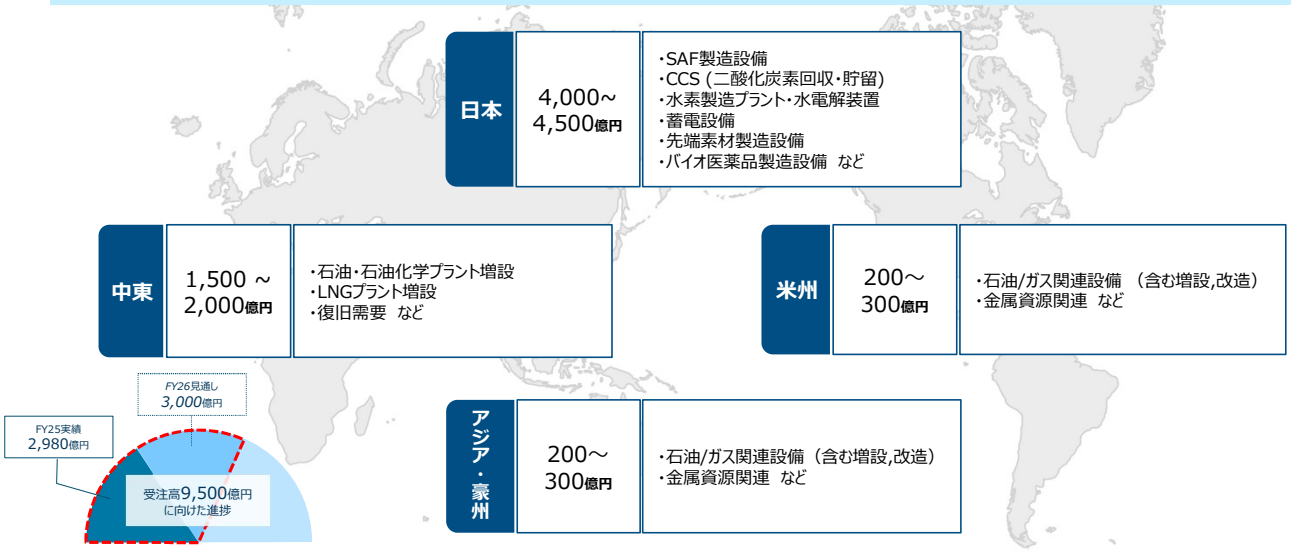
2026年度は、国内外の案件をバランスよく積み上げ、連結受注高3,000億円を目指します。

なお、受注高予想における内訳については、期初に発表した内容から、変更がございます。具体的には、海外500億円、国内2,500億円であった内訳を、海外1,500億円、国内1,500億円に変更しております。

受注残高につきましては、主要案件が終盤を迎えているため減少傾向ですが、中計期間の受注高目標を着実に達成することで、平均6,000億円の水準に戻すことを目指しています。

主な受注ターゲット

「経営計画2025」の累計受注計画 9,500億円達成に向けた主なターゲット



※2026年度、2027年度の受注獲得に向け千代田化工建設グループで取り組んでいる主な案件

CHIYODA CORPORATION

13

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

続いて、今後の受注ターゲットに関しては、13ページにてご説明します。

こちらのスライドでは、2027年度までの3カ年の受注計画9,500億円達成に向け、2025年度実績の2,980億円を除いた、残り約6,500億円を達成するための、ターゲット案件を掲載しています。

国内では、需要が旺盛であるSAFやCCSといった脱炭素、先端素材、医薬品関連案件の受注を引き続き追及していく方針です。

一方、海外では、オイル＆ガス関連を中心に、複数案件の受注に向けた取り組みを進めています。

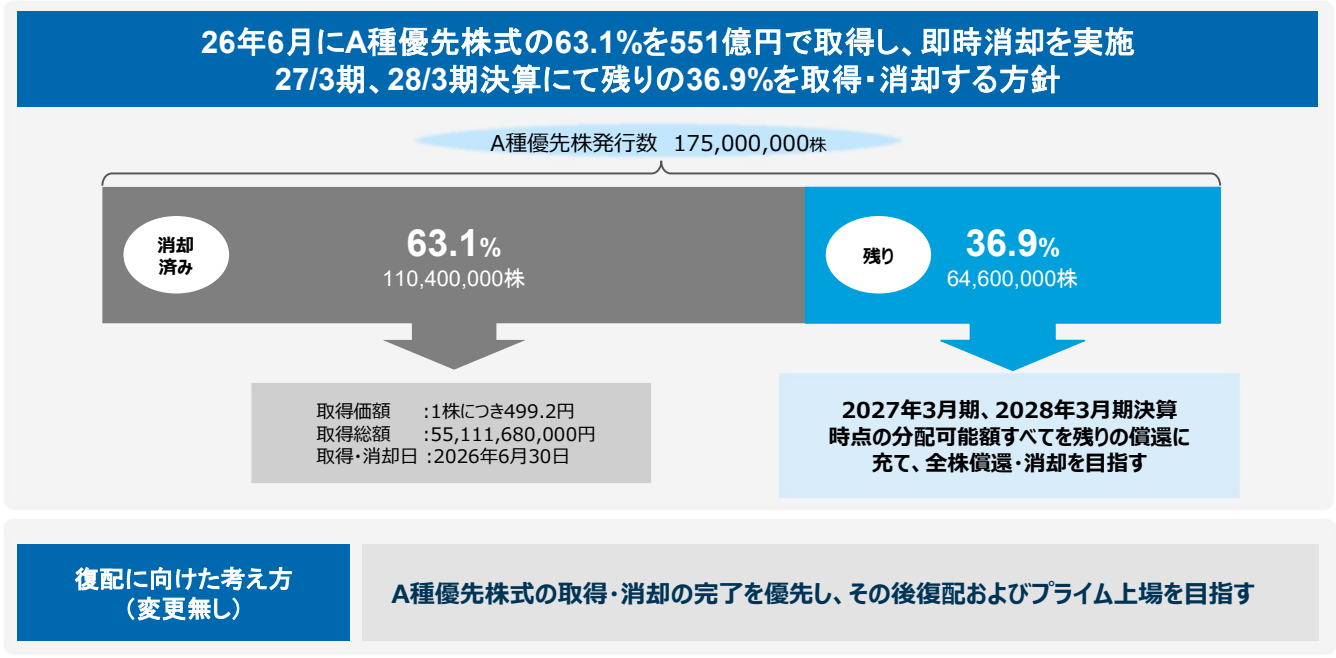
引き続き、案件形成を受注へ着実につなげ、受注計画の達成を目指します。

5. A種優先株式の償還状況

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

14

A種優先株の償還状況および復配に向けた考え方



CHIYODA CORPORATION
© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

最後に、A種優先株式の償還状況について、ご説明いたします。
15ページをご覧ください。

今年6月、A種優先株式の63.1パーセントを551億円で取得し、同日付で消却しました。

残る36.9パーセントについては、2027年3月期と2028年3月期の決算時点における分配可能額を充て、全株の取得・消却を目指します。

今後の方針としては、これまでの発表内容から変更はなく、A種優先株式の取得・消却の完了を優先します。その後、復配とプライム市場への上場を目指します。

引き続き、事業環境の変化に適切に対応しながら、リスク管理を徹底し、遂行中案件を着実に遂行します。あわせて、新たな受注と成長機会を獲得し、さらなる財務基盤の強化に取り組んでいきます。

以上で、説明を終わらせていただきます。

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】
千代田化工建設株式会社
財務企画室　IRグループ
E-Mail：ir@chiyodacorp.com

CHIYODA CORPORATION

© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

CHIYODA GROUP